

ホーム名：グループホームフレンド筆ケ崎 2F					
自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中でその人らしく暮らす。地域に密着した尊厳のある生活「地域の中で、その人がその人らしく暮らす」を理念としている。その人らしい生活、暮らしを支える意味をよく話し合い、現場で生かされるように取り組んでいる。	職員で考えた理念3項目を明示し、玄関とフロアに掲げている。地域出身の入居者も多く、地域に根ざし密着した支援を行う事で理念の実践に近づけている。	理念の実践には地域との関係が求められる。どのように地域と関わり入居者の生活を満たしていくのか、今後の具体的な取り組みが期待される。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はないが、今後、地域の老人会や町内の行事には参加しようと思っている。	商業地域の中に在り自治会の無い居住地である事から、地域とのつながりが殆ど無いのが現状である。	理念の実践に於いても地域とのつながりが大切となる。散歩や買い物等で、入居者また事業所として地域に広く存在感を示されたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	そういった取り組みがないので、今後は例えば、散歩中に地域の子供の見守り隊として見守り役などの事をしていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	フレンド天王寺と共同で開催している。会議には地域の代表、地域包括支援センターの代表、入居者及び家族の代表を外部メンバーとして現況報告を行い、意見交換を行っている。	入居者代表・家族代表・東上町推進委員・地域包括支援センター職員・ホーム管理者をメンバー構成員とし、隔月に系列内事業所「グループホームフレンド天王寺」と交代で開催している。利用状況報告・サービス質の向上への取り組み報告・出席者の意見等の議事内容である。	自治会の無い地域であるが、桃陽地区町会長の出席・協力が得られている。今後残り1ユニットの開設に臨まれる事からも、多くの家族の出席を得る努力を行い、地域包括の協力を得ながら単独での開催に漕ぎつきたい。議事録の充実を望む。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	行き来する事はないが、電話でのやり取りでサービスの質の向上に取り組んでいる。今後は、行き来する機会をつくり、市町村とのつながりを密にし、サービスの質の向上に取り組んでいきたい。	市の許可を得、系列内事業所と合同で運営推進会議を行っている。区役所には運営推進会議での地域の出席者について相談をしている。	市や区の職員とは些細な事でも相談に乗って頂けるよう、またホームに対してもアドバイスを頂けるように協力関係を築いていかれたい。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	どのような状態に置かれている利用者であったとしても、身体拘束をしなくていい方法を考え、その都度スタッフで話し合い検討し実践に努めている。	年間研修の中にも身体拘束に関するテーマを組み入れ、4月に事業所主体代表者の講師の下で勉強会を実施している。帰宅願望の強い入居者もおられ、安全を重視し出入り口は施錠している。	行動や言葉を遮ったりしていないか、日頃の支援の中で見落としがちな振る舞いを職員同士で話し合ってみる事も大切な取り組みと考える。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法について学ぶ研修等は、現在行っていないが、入居者の身体の確認、家族と入居者の関係についてタイムリーな把握に努めている。今後、研修等の時間をとり、法について学ぶ機会を作り、取り組んでいきたい。		

8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>簡単な資料をおいている。学ぶ機会や支援までは行っていない。大切な事なので、勉強会に取り入れ、詳しく学び支援していきたい</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居者や家族に分かりやすく説明し、疑問点についても、契約時だけでなく、その後においても聞いて頂ける様、柔軟に対応している。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談・苦情対応職員を設置し、意見を聞く機会を設け、スムーズに対応できる様にしている。意見箱設置もしている。</p>	<p>家族が来られた時には積極的に会話を持ち、意見や要望を伺っている。また電話でホームの様子を伝えている。大半の入居者家族はホームでの生活に安心を寄せ、お任せの感がある。</p>	<p>今回外部評価に当たって家族に依頼したアンケートの回答は13名中1名であった。ホームでの看取りを希望する家族が多いとの事。より一層の家族との協力関係が望まれる。ホームのより積極的な取り組みで協力関係が目に見える方向に努力されたい。</p>
11	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ミーティングで意見を聞く機会を設け、反映出来る様取り組んでいる。</p>	<p>職員のための食事会を定期的に設け（費用は会社負担）、提案や要望等自由に話せる場を作っている。開設して初めてのクリスマスを迎えるに当たって、精力的に準備をしてくれた。</p>	<p>職員からの提言がホームの充実につながる。何時でも意見や提案を言い出せる環境作りを大切にされたい。</p>
12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>共通した知識をもち、評価をもって向上心がもてるよう働きかけている。職員には定期的に日常の悩みや意見を聞く機会を設けている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>様々な取組み（研修や指導）を行っているが、未だ発展途上などが多い。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>同業者との交流はないが、同一法人のグループホームとの交流はある。時間が許せば大阪市のグループホーム連絡会に参加したい。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面接を必ず行い、本人とも話す時間を作っている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>家族との話合いを持つ場を大切にしている。いつでも相談に対応できるよう心がけている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>してほしい事や訴えたい事をいち早く見つける様努めている。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>スタッフは人生の先輩という尊敬の気持ちで接し、その場その場の会話を大切にし、昔に経験された事や調理の工夫等を学び支えあっている。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族との話し合い、笑い、共に支えあう関係を築いている。そうしていく上で家族からの本音が聞こえる。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の面会に制限せず、友人の方の面会など可能な限り受け入れられている。</p>	<p>馴染みの美容院の利用や商店での買い物など、引き続いての支援を行っている。家族と一緒に墓参りやコンサートに行かれる方もおられる。</p>	<p>人や物だけでなく、好きだった事や趣味なども続けて楽しめるよう支援をお願いしたい。</p>
21	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>一人ぼっちという場は作らず、仲間がたくさんいるという安心感をもってもらいたい、入居者同士が関われる場を大切にしている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>関係を断ち切らないよう、どんな時でも相談していただける関係を作っている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思っている事に希望や意思表示が困難な場合は、意思が確認できる様工夫する。本人本位になるよう前事業所からの情報を大切にしている。	一緒に生活する中で思いを汲み取る努力をしており、ミーティング時にも話題にしている。気づきは個人記録に残し、職員間共有している。	入居者一人ひとりと信頼関係を築いて行く事を大切にされた。職員間のレベルの差をなくし全体がレベルアップされるよう、努力されたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	生活歴や暮らし方、生活環境などを家族や知人からの聞き取りを行い、これまでの生活歴を大切にできるよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	統合的に把握し、柔軟に対応できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ガイドライン方式を活用している。作成については、ケアマネだけでなく、スタッフも交えチームで作成している。スタッフが気付いた事を介護計画に反映するようにしている。変化にその都度対応していく為、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。その際は関係者にも意見を聞き新たな計画作成を行っている。	職員間で話し合いを持ち、その人その人に即した介護計画を立てている。訪問マッサージの利用で歩行快復された方もおられる。計画の見直しは半年毎に行い、長期目標を1年・短期目標を3～6カ月で作成している。	今後も職員が共有した介護計画で、入居者の暮らしを支援して行って頂きたい。達成感の味わえる身近な目標設定で、張り合いのある毎日を過ごして行って頂きたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケースに日々の記録をとり水分、排泄、食事摂取量などを記載し、スタッフが情報を共有し、申し送りにも役立て、実践や介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	不穏時や必要に応じて、デイサービスの空間、物品を利用した支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は町会長との支援だけなので、今後積極的に支援していきたい。消防との連携によって、防火知識についての勉強会を予定している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始前からのかかりつけ医での受診をしたり、グループホームの協力医とも連携した対応をしている。	1週間に1度内科医による診察が行なわれている。認知症の症状等の相談もできている。希望者は歯科医による往診で、口腔ケアの指導、治療、義歯の調整も受けることが出来る。他科への受診について家族の希望があれば外注ヘルパーが同伴している。	入居者の様子、変化は家族に報告を徹底しているとのこと。家族への情報提供で入居者に対する家族との繋がりを強める支援に力を入れていることが伺える。

31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>看護師及び訪問看護師は、現在在籍していません。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者の情報交換を密に図り、早期退院への取り組み、グループホームの復帰を協議して取り組んでいる。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人の意向をもとに、家族の意向なども聞き入れ、医療機関と連携し、全員で方針を共有している。</p>	<p>当事業所での看取りの経験はないが近隣にある系列フレンド天王寺での看取を経験者した異動職員がいる。指針もあり、受け入れ態勢はある。</p>	<p>現在も医療関係との連携はできていると考えられる中で、入居者、家族が最期を希望すれば受け入れるとのこと。入居者・家族と時間をかけて十分に話し合われることに期待する。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>個別対応マニュアルで対応を行うようにしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>緊急連絡網を作成し、定期的な避難訓練を年間計画に取り組んでいる。</p>	<p>訓練、避難経路の確保、防災手引き、地震対応、風水害対応マニュアルがある。</p>	<p>地域住民との接点がほとんどない中で協力体制は困難と思われるが、隣接地に保育園開設計画のある中で今後、区役所へ防災避難等について働きかけをされたい。</p>

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>スタッフは入居者に尊敬を込めた言葉遣いで接しており、外来者への対応及び記録類の保管取扱い等、個人情報保護を心掛けている。</p>	<p>入浴、トイレ誘導時等入居者の性格を把握しながら支援に心掛けている。入居者の意見は否定せず受け止める。</p>	<p>どれだけ思っていることを表出してもらえるか、最後まで聞き取ることが出来るか、入居者の時代背景からの価値観を受け止める支援も検討されたい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>支援内容についても、わかりやすく説明をし、同意を得ている。認知症の方でも自己決定できるように情報を収集している。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりの体調・精神面を把握し、その時々本人の意向を尊重し支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>洗面所を設け、鏡をみる事で、身だしなみを心がけてもらえるように努めている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>その日のメニューを食堂に掲示し、話題のひとつとしている。準備や片づけはスタッフがしている。準備や片づけをする事で、日常生活により近くなるので、出来る範囲で一緒に行っていきたい。</p>	<p>朝食はパン食、昼、夕食は弁当として業者から届けられ、職員が加熱、盛り付け等を行い配膳されている。入居者の状態で柔らかい食、ペースト状食、エンシュアをゼリー状にした種類もある。</p>	<p>夫婦で入居されている奥さんが食事介助を受けている様子をじっと見守るようなご主人の顔。何も言葉にはしていなかったが一緒に過ごすことができることに大きな安心感を持っていただける支援を願う。</p>
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの食事の摂取量や水分摂取量、栄養バランスを1日全体を通して把握している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔内の清潔保持を日常的に支援している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>声かけや、誘導により排泄の失敗やおむつの使用を減らせるよう支援している。</p>	<p>入居者の半数が自立できており、布パンツで過ごしている方も2～3名。車椅子利用2名もトイレ誘導で座位排泄支援が行なわれている。</p>	<p>排泄の自立を確保できることは生きていく自信に繋がる。集団生活で良い習慣をつくることへの支援を今後共継続されたい。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>入居者の排泄の状態を把握するため、排泄チェック表に記録している。また、必要に応じて家族や医療機関への報告を行い、指示に従い水分補給等の対応を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入居者一人ひとりの希望にあわせ、気持ちよく入浴できるように支援している。</p>	<p>浴室には個浴層と壁にボディシャワー機器が取り付けられ重宝されている。1日4人昼間入浴を基本に希望により夜間入浴もできている。</p>	<p>週に2回を計画に、希望者は毎日でもこれまでの習慣を持続する支援がある。入居者が最もリラックスできる入浴支援。柚子の香りが喜ばれ、職員と共感できるものであって欲しい。</p>

46	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、夜眠れない入居者には、1日のリズムづくりを通じた安眠薬をとっている。</p>		
47	<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>スタッフは入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者の一人ひとりが医師の指示通り服薬できるよう支援し症状の変化を確認している。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(洗濯たたみ、食器洗い、モップかけ、新聞取り)</p>		
49	18 <p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>近くの公園や神社等に出かけ、季節の変化を感じてもらったり、近くのスーパーなどにも出かけている。</p>	<p>散歩は毎日、4人ほどで車椅子の入居者も含めて外出している。近隣には池や公園もあり弁当持参で、お花見もできる。朝食材料購入のための近くの店まで入居者と一緒に出掛けている。</p>	<p>菜園作りの時期には水やり、洗濯もの干し等機会をつくり、声かけをしている様子がわかる。行動を共にする中で、これまでの入居者の生活に触れ思いを共有することに繋がる。今後も色々な機会をとらえ寄り添える支援に期待する。</p>
50	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>必要な買い物の代行や同行で、実際にお金を使う事の提供を行っている。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>手紙の代筆やポストへの投函を行い、友人への電話をつないだりと支援している。</p>		
52	19 <p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>心地よく過ごせるように、採光や騒音に配慮し家庭的な雰囲気作りを心掛けている。</p>	<p>フロアにはクリスマスツリーが置かれている。座席は入居者が自由に行っている。壁には入居者の写真が貼ってある。ベランダには洗濯物が干してあり、夏場には野菜栽培をしている。</p>	<p>代表者は「採光を採り入れた共用スペースを確保したかった」との事。防音装備で窓から見える電車の音が全く気にならない。整理整頓された清潔な使い方がされている。</p>
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ソファやテーブルを置き、好きな場所で過ごせるよう配慮している。時には、生花や鉢植えなどを置き居心地よく過ごせるよう心がけている。</p>		
54	20 <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者一人ひとりに合わせた居室の環境作り、居室には使い慣れた家具や生活用品、装飾品などが持ち込まれ安心して過ごせる場所になっている。</p>	<p>居室の入り口には大きな字でフルネームの表札があり、認識困難な入居者のためには顔写真が貼られている。ベッドは事業所が提供、リネン類は慣れた物を持ち込み使用している。布団干しも行われている。</p>	<p>居室での生活は入居者のプライベートルームとして、入居者が自分で出来る洗濯物おし、掃除等は支援しながら行っている。その人らしくを支援するゆっくり見守る支援を続けていきたい。</p>
55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内はバリアフリーになっており、滑り止めや要所への手すりの設置、福祉用具の利用により、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。各居室の入口に表札をあげ、自分の居室がわかりやすいよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての利用者として ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない